



令和6年度

施政方針

(はじめに)

令和6年第2回荒尾市議会の開会に当たりまして、施政の方針を申し述べ、議員の皆様及び市民の皆様のご理解、ご協力を得たいと存じます。

令和6年は、能登半島地震という大きな災害に見舞われる中での幕明けとなりました。今なお厳しい状況にある被災地に思いをはせ、改めて尊い命を落とされた方々に哀悼の意を表し、被災された方々にお見舞いを申し上げます。

本市といたしましても、被災者の皆様の一日も早い復旧の足掛かりとなるよう、引き続き職員派遣などニーズに応じた支援を行っていく考えであります。

地震、風水害など頻発化する災害への備え、被害の最小化への取組は、令和2年7月豪雨を経験した本市としても最も重要な課題であると再認識したところであります。

さて、新型コロナの感染拡大、地球温暖化の進行、ウクライナ戦争、緊迫化する中東情勢などの世界情勢は、近年にない不安定化、先行きの不透明化をもたらしております。

また、社会活動や市民生活においても、それらに起因する物価高やエネルギー高騰等が多方面に影響を及ぼしております。

世界のリーダーたちには、この状況を解決し、地球の未来と人類の未来への責任があります。

同様に私には、荒尾市の未来と荒尾市民の未来、市民の皆様の幸せの探求に最大限尽力する使命と責任があります。この思いは市長就任から今日まで変わることはありません。

今、本市で取り組んでいる施策、事業も全てこの思いが原点にあります。今後におきましても、同じ思いで市政を推進していきたいと考えております。

現在、本市には県内外から多くの視察があります。それは、本市が取り組んでいる様々な施策や事業が全国的に注目され、評価されている表れであり、また、その延長として私自身がパネリストを務めるセミナーや雑誌の対談など様々な機会をいただき、トップセールスの一環として積極的に参加しております。

しかし、私は市民の皆様から「荒尾に住んで良かった」との声をお聞きするのが何よりの評価だと受け止めています。

荒尾市に暮らしていることを私自身誇りに思い、皆様にも誇りを持ってもらえるよう、今般改訂した第6次荒尾市総合計画の本市の将来像に「暮らしたいまち日本一」を新たに加え、そのスタートとして令和6年度予算を編成したところであります。

(少子化対策)

全国的に問題となっている少子化が、本市においても深刻化しており、出生数はここ数年で激減しております。本市の人口構造では、20代の女性が少ないことに加え、転

出も多いため、若者が減少してきていることが主な要因と考えています。そこで、本市では将来結婚や出産を望む人の希望を実現できるような社会環境づくりを推進し、少子化対策を強化するため、令和6年2月に市総合計画を改訂し、その取組を明確にしたところです。

横断的目標「こどももみんなも笑顔でいられるまちをつくる」

今回の改訂版においては、少子化対策の強化を図るため、重点戦略「あらお未来プロジェクト」における横断的な目標として、新たに「こどももみんなも笑顔でいられるまちをつくる」を設定いたしました。住まいや雇用などあらゆる分野の視点から広く少子化対策を意識した事業を実施していくこととし、「乳幼児期～学生期」、「若年期」、「妊娠・出産・子育て期」といったライフステージごとに、切れ目のないパッケージとして幅広い施策を展開してまいります。

最初のライフステージは、「乳幼児期～学生期」です。子どもたちが安心して過ごせる居場所を確保していくとともに、幼少期から地元へ愛着を持ってもらい、転出抑制やUターンの促進を図ってまいります。

放課後児童クラブにつきましては、待機児童の解消が喫緊の課題であるため、中央小学校校区ではシオン園保育所内に新設、万田学童クラブと清里小放課後児童クラブでは、定員の増加を行うなど、受皿の拡大を図ってまいります。

また、臨時休校時や緊急的に下校時刻が早まる場合において、家庭での対応が難しい児童を学校で預かることで、共働き世帯であっても子どもたちが安心して過ごせる環境を作ってまいります。

孫文と宮崎滔天の友情により始まったシンガポールとの交流は、今年はシンガポールの中学生が本市を訪問します。日本の中学校生活や日本文化を体験してもらい、本市の中学生には日本や郷土の歴史・文化について理解を深める機会としてまいります。

2番目のライフステージは、「若年期」です。多様な生き方を尊重しながら、結婚や子育てに対する不安感を軽減していく取組などを行います。

いずれは結婚したいと思っても、なかなか出会いの機会がないという若者に対して、趣味や興味があることを通じ、気軽に出会えるコミュニティの場をつくってまいります。

また、進学や就職を機に転出した若者とも、SNSを通じて市の魅力や市内企業等のあらゆる情報を発信することでつながりを持ち続け、Uターンの促進を図ってまいります。

3番目のライフステージは、「妊娠・出産・子育て期」です。まち全体で子育て世帯を応援し、ゆとりを持って子どもと過ごせる環境を整備してまいります。

令和6年4月から、18歳未満の子どもを2人以上扶養する世帯で、認可保育所等に通う第2子以降の子どもの保育料を、保護者の収入にかかわらず無償化いたします。また、一般不妊治療への助成に加え、治療費が高額な体外受精や顕微授精といった特定不妊治療への助成を行うなど、子どもを望む誰もが諦めることなく、安心して子どもを持てるように支援してまいります。

子育ての援助をしたい方と援助を受けたい方をつなぐファミリー・サポート・センターの協力会員の増員を図るため、周知に力を入れるとともに、子育てにおける心身の負担軽減となるよう利用を促進してまいります。

デジタル技術を活用した子育てにおける安心感の確保への取組として、全児童に配布しているGIGAスクールタブレットの位置情報を活用して、登下校の見守りをまず2校で行います。

また、デジタル健康手帳において、母子・介護分野への機能拡張についての検討を進めてまいります。

男性の家事や育児への参画及び男性の育休取得を促進するために市内事業所へのアドバイザー派遣を行い、子育てを理解・応援できる職場づくりを促進してまいります。

以上が、今年度、少子化対策を強化する上での新たな取組となります。続きまして、その他、令和6年度に本市が取り組む主要な施策につきまして、「あらお未来プロジェクト」の五つの柱に沿ってご説明いたします。

(主要な施策)

「切れ目のない充実した子育て環境をつくる」

一つ目の「切れ目のない充実した子育て環境をつくる」であります。

妊娠から出産・子育てに至るまで、ニーズに合わせた切れ目のない支援に加え、子どもの成長段階に合わせた支援、教育の質の向上への取組などにより、子育て環境としての魅力向上を図ってまいります。

市内産婦人科医療機関の産科医師と有明医療センターが一体となり、分娩機能を有明医療センターに集約する「周産期医療システム」につきましては、昨年10月の開始後80件を超える分娩数となっており、今後も安心して出産できる環境を維持・発展させるようマンパワーの強化を図ってまいります。

個々の家庭に応じた切れ目のない支援や虐待防止など、幅広い相談支援の強化を図るため、「こども家庭センター」を開設し、妊産婦、子育て世帯、子どもと保護者に対し、より一体的な相談等の体制を整備してまいります。

育児や家事等に関して、特に支援が必要だと判断した家庭に対し、新たな支援を行うことで、不安や負担の解消を図ってまいります。

また、本市のこども施策を総合的に推進するため、「荒尾市こども計画」を策定いたします。

市内で活動されている子ども食堂へ運営に係る経費を助成し、児童福祉の向上を図るとともに地域のつながる力を支援してまいります。

教育環境につきましては、タブレット端末の更なる利活用や、デジタル教科書の整備、通信環境の高速化など質の高いICT教育環境を充実させるとともに、学校施設のバリアフリー化の推進に加え、小中学校トイレの洋式化を進め、衛生面の向上もスピード感を持って進めてまいります。

学力の向上につきましては、「授業改善アドバイザー」を派遣し、「進化型あらおベーシック」の確実な実施とその評価を行うとともに、中学生全員を対象とする英語検定費用の助成、ALTの5人体制及び英語教育指導力向上のための教職員研修を実施し、英語の日常化を目指してまいります。

複式学級の回避や学校全体の活性化を目指すため、府本小学校で令和7年度新入学児童から導入する、市内各地から通える小規模特認校制度の募集を行ってまいります。

一人一人の教育的ニーズに対応した、適切な指導・支援を行い、子どもたちが落ち着いて学校生活を送れるよう、特別支援教育支援員の更なる増員を図ってまいります。

小学校における不登校児童の増加を受け、支援の拠点として1か所ハートフルルームを設置いたします。

「誰もがつながりを持ち、健康でいきいきとした暮らしをつくる」

次に、二つ目の「誰もがつながりを持ち、健康でいきいきとした暮らしをつくる」であります。

誰もが地域の中でつながりを持ち、安心して生活できるよう多様性を尊重した地域共生社会の実現を目指すとともに、心身ともに健康であり、生きがいを持って生活できるよう目指してまいります。

まず、昨年10月に開院した荒尾市立有明医療センターは、解体工事などを進め11月にグランドオープンを迎えます。12月には正面玄関前に路線バスの乗り入れを始め、利便性の向上を図ってまいります。

また、あらお海陽スマートタウンにおける「保健・福祉・子育て支援施設」につきましては、健康づくりや疾病予防、ワンストップでの相談・支援など、子どもから高齢者までいきいきと健康で安心して暮らせるまちづくりの拠点として、令和8年のオープンを目指して整備してまいります。

健康長寿社会の実現に向けて、将来の健診結果をAIで予測するサービスや血液検査で将来の疾病発症リスクを予測するサービスで健康意識を高めるとともに、小型センサーやスマートフォンを活用した糖尿病予防プログラムを実施し、生活習慣の改善を進め

てまいります。

また、本市と大牟田市の市民が、両市の受託医療機関で子宮頸がん及び乳がんの検診や国民健康保険の特定健診、若年者健診を受診できるようにして、利便性の向上を図ってまいります。

障がい者福祉につきましては、重度心身障害者医療費助成における自己負担金を令和7年1月診療分から無償化して、障がい者とその家族の負担を軽減してまいります。

また、社会やコミュニティから孤立した単身者、障がい者、生活困窮者などに必要な支援が届くよう、包括的な相談支援体制及び相談機関とのネットワークを構築してまいります。

生涯学習の推進につきましては、開館3年目となる市立図書館では、デジタルライブラリーの活用や閲覧席の増設などの図書館の環境整備に取り組み、更なる来館者の増加や満足度の向上による「本のまち、文化のまち」を目指してまいります。

荒尾市民体育館につきましては、屋根全体を改修するための調査設計を行ってまいります。

「雇用の確保と所得の向上で安定した暮らしをつくる」

次に、三つ目の「雇用の確保と所得の向上で安定した暮らしをつくる」であります。

市内の雇用の場を拡大するとともに、あらゆる人が市内で就職しやすい環境をつくることで、人手不足の解消を図るとともに、地域産業の生産性向上や地域経済循環の活性化を図り、所得の向上を目指してまいります。

企業誘致につきましては、大手半導体メーカーであるTSMCの進出に伴い、県内への企業立地が活発化している今を好機と捉え、新しい工業団地を検討し、半導体関連企業の誘致活動を進めてまいります。また、空き校舎や民間の遊休地を有効活用した誘致や、比較的小規模な事業所の開設を支援してまいります。

地元就職の促進につきましては、企業視察ツアーや大牟田市との合同によるオンライン企業PR会を行い、地元雇用につながるマッチングの機会を創出するとともに、市内企業を紹介する冊子を作成してその魅力を発信し、地元就職の機運を高めてまいります。

また、ハローワーク等の関係機関と連携し、生活保護受給者や生活困窮者の実態に即した就労支援を行ってまいります。

農業の振興につきましては、平山及び府本地区での圃場整備や農地集積を推進するとともに、「道の駅」開業も見据え、野菜や果物の種子・苗や、農業用機械等の購入への助成を行い、品ぞろえの充実を図ってまいります。また、出荷が難しい規格外の生産物などの活用方法に関するセミナーや地産地消フェアを開催し、地元農産物の消費拡大や所得向上を図ってまいります。

本市特産の梨につきましては、品種構成の多様化を図るため、転換に対する苗木補助を行うとともに、「ことのみ」ブランドの更なる確立を図り、国内外への販路拡大を支援してまいります。

野生鳥獣による農作物被害を防ぐため、捕獲した有害鳥獣の焼却処分費用を直接市が負担し、捕獲者の処理負担の軽減を図ってまいります。

水産業につきましては、荒尾漁協と連携してマガキの本格販売に向けた支援に取り組むとともに、覆砂やエイによる食害対策等の支援を行い、アサリ等の漁獲量の向上を図ってまいります。

「あらおファンを増やすとともに、移住しやすい環境をつくる」

次に、四つ目の「あらおファンを増やすとともに、移住しやすい環境をつくる」であります。

移住促進に向けたプロセスとして、本市と継続的に多様な形で関わる人々を「あらおファン」と位置付け、まずはその拡大を図り、それぞれの関わりを深めることで、本市への好感度を高め、最終的に移住につなげることを目指してまいります。

TSMCの本格稼働により、台湾から多くの従業者やご家族が来熊されていますので、本市の魅力を知ってもらうためのモニターツアーを実施するとともに、海外発着のバスツアーにより荒尾を訪問された方に対する補助金等のインセンティブにより、インバウンドの誘客拡大を図ってまいります。

移住定住への契機として「あらおファン」の拡大に向けた観光への取組が重要となっておりますので、荒尾干潟と万田坑という二つの世界基準の観光資源をいかして、観光地としての魅力を更に高めてまいります。

荒尾干潟水鳥・湿地センターでは、開館5周年記念イベントの開催や、テラー乗車をはじめとする体験プログラム、万田坑では、バッテリー駆動できる炭鉱電車による定期的な実走の公開を行い、荒尾にしかない魅力の発信を行ってまいります。

本市への移住・定住の促進につきましては、積極的な情報発信や移住コーディネーターによるきめ細かなサポート、移住検討者のニーズに応じたオーダーメイド型移住体験ツアーの実施に加え、子育て世帯の住宅取得を伴う移住への助成、テレワーク環境整備への支援により、移住先として選ばれる地域づくりを進めてまいります。

また、地域活性化起業人による外からの視点で本市の魅力を広く情報発信し、交流人口の拡大、移住定住につなげてまいります。

「先進的で持続可能なまちをつくる」

最後に、五つ目の「先進的で持続可能なまちをつくる」であります。

荒尾市DX推進計画に沿った先端技術の積極的な活用による暮らしの質の向上、新たな中心拠点づくりを目指してまいります。

荒尾駅の改修につきましては、JR九州との協定を締結し、基本計画を策定するなど推進してまいります。

また、荒尾駅とあらお海陽スマートタウンとの回遊性を向上し、にぎわいを創出するため、駅舎の利活用をはじめ、空き店舗を活用した駅前の活性化に取り組んでまいります。

あらお海陽スマートタウンにおいては、基盤整備が令和6年度に完了することから、まちづくりコンセプトでもあるウェルネス拠点の実現のため、民間施設の誘致を着実に進めてまいります。

道の駅と保健・福祉・子育て支援施設につきましては、令和8年6月のまちびらきに向けて施設整備に着手し、エリア全体の発展をけん引していく魅力ある施設づくりを進めてまいります。

地域高規格道路「有明海沿岸道路」につきましては、三池港インターチェンジ連絡路の工事が順調に進んでおり、荒尾道路につきましても、2月12日に中心杭打ち式が執り行われ、本市としても用地買収など開通に向け全力で協力してまいります。

高齢者などの情報格差の解消を図るため、スマートフォン体験会やスマートフォン教室を市内各地で実施し、全ての市民がデジタル化の恩恵を享受できる全世代型のデジタル社会を構築してまいります。

市民課窓口及び市民サービスセンターにおいて、マイナンバーカードを利用した「書かない窓口」を進めるとともに、キャッシュレス決済サービスも導入し、利用者の利便性の向上を図ってまいります。

公共交通につきましては、バス事業者と連携して市内循環線導入を含む路線再編を実施し、需要に応じた運行ダイヤを編成してまいります。

持続可能な循環型社会の形成への取組として、プラスチック製容器包装等の分別収集を4月から開始いたします。また、新たに事業所向けの高効率のエアコンやLED照明設備導入へ補助を実施し、再エネと省エネの両面での脱炭素化を推進してまいります。

空き家対策につきましては、「空き家の発生抑制、利活用・除却の促進、適正管理」に取り組むとともに、モデル地域に位置付ける府本地区での取組を引き続き地域と連携しながら進めてまいります。

近年頻発する集中豪雨等の自然災害につきましては、ハード・ソフト両面から強化を図ってまいります。

ハード面においては、令和2年7月豪雨により堤防が決壊した関川では、県により改修が進められており、市においても浸水対策を推進してまいります。

ソフト面においては、地域防災リーダーの育成や地区防災計画の策定を支援するとと

もに、避難行動要支援者に対する個別計画の策定につきましても、避難支援者と連携しながら進めてまいります。

防犯対策につきましては、防犯カメラの追加設置や地域におけるLED防犯灯設置費用の助成を行うとともに、荒尾警察署と連携して犯罪が起きにくい地域づくりを推進します。また、犯罪行為により被害を受けた方々に対し寄り添った支援を新たに行ってまいります。

(令和6年度当初予算案の概要)

次に、令和6年度当初予算の規模について申し上げますと、一般会計が263億6,000万円、特別会計が148億4,017万5千円、企業会計が170億3,121万5千円で、全会計の総計は582億3,139万円といたしました。

これを前年度当初予算と比較しますと、一般会計は8%の増、特別会計は0.7%の増、企業会計は15.3%の減、総計で1.7%の減となっております。

(おわりに)

以上、「あらお未来プロジェクト」に沿って、主要な施策を述べさせていただきました。

令和6年度は、冒頭申し上げたように、喫緊の問題となっている急速に進む少子化に対応するため、ライフステージごとに切れ目のない新規施策を全庁的にパッケージでまとめ、地域や事業所の皆さんとも一体となって進める『オール荒尾少子化対策予算』との想いを込めて編成いたしました。

いま荒尾市は、少子化のほかにも、超高齢社会への対応、コロナや物価高で大きな影響を受けた地域経済の回復、自然災害への備えなど、多くの課題に直面していますが、先進的技術を持つ企業や大学などと積極的に連携し、新しいまちづくりに取り組んでおり、少しずつ形になってきているところです。

先日、荒尾出身者で構成する「関西荒尾会」の会合に出席し、荒尾市のまちづくりの近況を説明いたしました。参加者からは、変わりつつある故郷に強い関心を示され、荒尾に帰って実際に見てみたいという声がたくさん聞かれました。

今後も、最小の経費で最大の効果が得られるよう、創意工夫しながら果敢に挑戦し、若い世代には荒尾で子どもを産み育てたいと感じていただき、将来を担う子どもたちが夢を抱き、そして、高齢者の皆さんには健康で安心して暮らしていただけるよう、誰もが幸せを実感できる『暮らしたいまち日本一』を目指してまいります。

今後も、議員各位及び市民の皆様のご理解とご協力お願い申し上げます、令和6年度の施政方針といたします。